

4 横浜みどりアップ計画市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画市民推進会議の概要

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さんへの情報提供等をおこなうことを目的として、平成21年に設置され、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や各種部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価、提案を行ってきました。

みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、平成26年度からのみどりアップ計画についても、継続して活動しています。

【表】委員名簿（50音順・敬称略、平成28年6月1日時点）

氏名	所属部会	区分	備考
相川 健志	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
相原 信行	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市町内会連合会 顧問
東 みちよ	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会部会長	公募市民	
池田 信彦	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
池邊 このみ	・「緑をつくる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
大竹 斎子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
加茂 千津子	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
清水 靖枝	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
進士 五十八	・座長	学識経験者	福井県立大学 学長
関水 金作	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	追分・矢指市民の森愛護会 会長
葛谷 栄一	・副座長 ・「農を感じる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	株式会社農林中金総合研究所 客員研究員
長瀬 里佳	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
野路 幸子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	元横浜市中央農業委員会委員
望月 正光	・「森を育む」施策を検討する部会部会長 ・広報・見える化部会委員	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授
矢沢 定則	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事
若林 史郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜商工会議所 常任参与

(2) 活動実績

ア 全体会議

全体会議、現地調査、部会での議論をもとに「横浜みどりアップ計画の評価・提案」（横浜みどりアップ計画市民推進会議平成27年度報告書）について検討しました。

	開催日	主な討議内容
第22回会議	平成27年 5月1日	・市民推進会議平成26年度報告書（案）について ・横浜みどりアップ計画平成27年度事業内容について ・市民推進会議平成27年度の取組について
第23回会議	平成28年 2月5日	・横浜みどりアップ計画の進捗状況について ・市民推進会議平成27年度報告書について

イ 部会

《施策別専門部会》

横浜みどりアップ計画の事業分野ごとに、取組の内容と進捗状況について意見交換を行い、評価・提案について検討しました。

会議	開催日	主な討議内容
第8回「森を育む」 施策を検討する部会	平成28年 3月8日	・「森を育む」施策の評価・提案について
第8回「農を感じる」 施策を検討する部会	2月25日	・「農を感じる」施策の評価・提案について
第8回「緑をつくる」 施策を検討する部会	3月4日	・「緑をつくる」施策の評価・提案について

《広報・見える化部会》

市民推進会議の広報誌「みどりアップQ」の編集を行いました。

市民の視点から、横浜みどりアップ計画と横浜みどり税を市民の皆さまへわかりやすく伝える方法について検討しました。

また、横浜みどりアップ計画の取組を伝えるための子ども向けイベントを企画し、開催しました。

会議	開催日	主な討議内容
第24回	平成27年 5月20日	・みどりアップQ（第4号）について
第25回	9月4日	・みどりアップQ（第5号）について
第26回	平成28年 1月22日	・みどりアップQ（第6号）について

会議	開催日	主な討議内容
第27回	2月16日	・事業の評価・提案について ・広報・見える化部会開催のイベントについて ・みどりアップQ別冊（子ども版）について
第28回	3月12日	・まちもり探検キッズ（子ども向けイベント）

ウ 現地調査

横浜みどりアップ計画の取組を実感し、現場で活動する方々の声を直接聞くため、現地調査を実施しました。

会議	開催日	主な討議内容
第14回	平成27年 9月7日	<場所> 横浜自然観察の森、自然観察センター、上郷・森の家 <内容> 自然観察センターのレンジャーの方から、ウェルカムセンターの施設や取組について説明を受け、樹林地を歩きながら、小学生向け宿泊体験学習を視察した後、意見交換を行いました。
第15回	11月14日	<場所> 東寺尾ふれあいの樹林、東寺尾一丁目ふれあい公園（鶴見区東寺尾）、地域緑のまちづくり北寺尾地区（鶴見区北寺尾）、みなとみらい21新港地区8街区 <内容> 公園の指定管理者、ボランティアリーダー、地域緑のまちづくりを行う団体の会長から説明を受け、緑地保全制度により保全された樹林地、農園付公園、地域緑のまちづくり、港湾緑地を調査した後、ナビオス横浜で一般参加者の意見交換を行いました。



【写真】現地調査の様子

- ①樹林地/自然観察の森ほか（栄区）
- ②農園付公園/東寺尾一丁目ふれあい公園（鶴見区）
- ③緑化/みなとみらい21新港地区（中区）

工 広報誌の発行

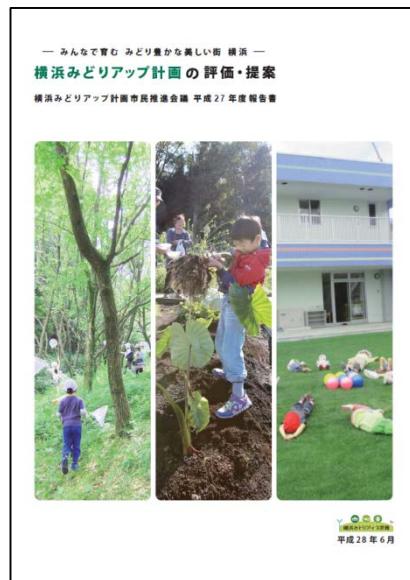
「みどりアップQ」を3回（平成27年7月、11月、平成28年3月）と別冊（子ども版）（平成28年3月）を発行しました。



【図】「みどりアップQ」の表紙

才 報告書の発行

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成27年度報告書を発行しました。
(平成28年6月)



【図】報告書の表紙

(3) 評価と提案の概要

※「横浜みどりアップ計画の評価・提案（横浜みどりアップ計画市民推進会議
平成27年度報告書）」より抜粋

計画全体として、柱ごとに数多くの事業が着実に推進されています。

「取組の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、全体的に目標どおり進んでいます。特にみどりアップ計画の根幹の事業である樹林地の保全は、毎年度の新規指定面積100haという高い目標を掲げる中で、平成26年度に続き目標を達成しており、事業が着実に進んでいることを評価します。

「取組の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全奨励などはほぼ目標を達成していますが、共同利用設備の整備など、目標を達成できない取組もあります。取組の内容の精査も含め更なる事業の推進に向け努力してください。

「取組の柱3：市民が実感できる緑をつくる」については、民有地における緑化の助成など、一部の取組では目標を下回りましたが、全体的に順調に目標を達成しています。

保育園・幼稚園・小学校での緑の創出については、目標を上回る進捗状況となっています。また、学校のビオトープをつくる際に、子ども達が計画する段階から専門家のアドバイスなどを受けられるようになったことは、大変意義があります。

「効果的な広報の展開」については、マスコットキャラクターやPR用動画の制作など新たな取組も行われ、今後の有効な活用に期待します。

また、みどりアップ計画の実績を、全国に先駆けた取組として国内外にも広くPRしていく必要があります。その際、横浜市の特別緑地保全地区の指定面積が、「平成26年度は全国の約7割を占める」など、インパクトのある表現で広報する工夫も必要です。

みどりアップ計画は、関係する市民や団体、事業分野が多岐にわたるので、取組や市民理解を更に進めるため、行政の縦割りにとらわれない推進が求められます。

平成28年度は、みどりアップ計画の5か年の折り返しの年でもあり、計画達成に向けて着実に取組が推進されることを期待します。

